



## 建学の精神

九州学院の校訓「敬天愛人」は、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書 22章 37~39節)を原典とし、キリスト教精神の真髄を表わすものです。これは、初代院長 遠山参良が開校式で行なった訓辞にある、「自分で自分を監督し、役に立つ善人となれ」の標語とともに、九州学院の100年の歴史の中で脈々と息づき受け継がれています。

私たちの救い主である神の前に単独者として立つ一人の人間として神を畏れ(敬天)、「自分で自分を監督し」(省察と自主自立)、神の国のために「役に立つ善人」(他者を尊び、隣人を愛することによって市民社会に貢献する人材)となるべく学び、人格を陶冶していく全人教育。九州学院の教育のミッション(使命)は、まさしくそこにあります。



九州学院 校章・マーク  
KYUSHU GAKUIN の頭文字、KとGを図案化しました。

## 学校法人 九州学院

〒862-8676 熊本県熊本市大江5-2-1

TEL : 096-364-6134 FAX : 096-363-2576



## 創立

1911年(明治44)4月15日、九州学院はアメリカ南部一致ルーテルシノッド(教会会議の意)宣教師のチャールズ・L・ブラウンによって創設されました。

同シノッドの日本伝道は J・A・B・シューラーと R・B・ピーリーの二人の宣教師によって、1893年(明治26)佐賀で始められましたが、3年後に病のため帰米したシューラーの後を受けて、1898年(明治31)ブラウンが佐賀に着任。2年後から、熊本在留最初の宣教師として熊本伝道を開始しました。ブラウンは、山内直丸牧師によって設立された日本福音路帖教会で宣教師として伝道活動に従事する一方で、1901年(明治34)から第五高等学校英語講師を務めました。こうした活動の中で、ブラウンは熊本の地にミッションスクールをつくるのが急務であることを痛感します。1906年(明治39)一時休暇のため帰米したブラウンは、熊本にミッションスクールを創設するため奔走しました。

ブラウンの後任宣教師として1906年(明治39)熊本に着任していた A・J・スタイワルトは、熊本教会山内直丸牧師と1908年(明治41)9月15日(私立熊本高等予備学校)を開校。講師には、のちに九州学院初代院長となった、第五高等学校教授 遠山参良もおり、ルーテル教会の教育事業の先駆となりましたが、「訓令第12号」の影響もあって突然閉鎖されてしまいました。

1908年(明治41)ブラウンが建設資金を携えて熊本に帰任。ミッションスクールの土地取得のためには社団法人を申請する必要から翌年上京して、内務省に認可のための必要書類を提出するかたわら、東京の各学校の実状を視察調査しました。学校敷地の購入に先駆けて、ブラウンを校長に1909年(明治42)新屋敷町412番地のスタイワルト宅を仮校舎にして(路帖神学校)を開校しました。

秋までに土地を購入し建築に着手すれば、1910年(明治43)の春に開校できると目論んでいましたが、日露戦争終結後の恐慌に見舞われ、土地や建築資材の価格も高騰し、追加資金が必要となります。スタイワルトがミッションスクールの募金の訴えを主な任務として一時帰国し、ルーテル教会の力強い支援を取りつけることができませんでした。

## 創立の背景と歴史

ブラウン宣教師が構想した九州学院は、「しかるべき教養を身につけた牧師を養成する神学部とそれに併設する中学校のキリスト教主義学校」であり、そこで「日本人信徒の精神的価値観を発展的にキリスト教的に刷新し、教会における指導的信徒を養育していくことを目的とした」ものであったのです。そうしたビジョンのもと開校した路帖神学校から、九州学院設立プロジェクトが一気に実現へ向かって突き進んでいきました。九州学院という名称は、山内直丸牧師がブラウンや学院創設協力者と相談してつけたようです。この名称には、「将来神学部、高等専門学部を設けて、明治学院、青山学院、関東学院、関西学院、東北学院の諸学院と肩を並べるものに発展させよう」という考えからであったようです。「訓令第12号」の規制を受けない(私立九州学院)としてのスタートでした。

ブラウンが休暇で帰米している間に、熊本では福田令壽(熊本英学校出身、エジンバラ大医学部卒の医師)を会長として信徒数十名が合同し熊本市青年会を組織。また、日本福音路帖教会の講義所に1908年(明治41)貧困者のための施療所(紫苑会治療所)が設けられ、熊本の七つの教会の婦人会連合会(シオン会)による献身的な活動がなされていました。顧問の一員には遠山参良も参画しています。

1908年(明治41)熊本に帰任以来、ミッションスクール設立のため準備を進めていたブラウンは、年末にアメリカ南部一致ルーテルシノッド海外伝道局宛に手紙を送り、ミッションスクールを熊本に設置する予定で学校の場所の選定が急務であることと、土地購入のため5000ドルを送金してほしい旨を伝えています。その手紙の中で「校長として素晴らしい人材を見つけた」こと、「質の高い能力と経験に富んだ人材の確保が最も重要」であることなどを記しています。ブラウンは、校長として遠山を置いて外に適任者はいないと確信していました。遠山は、熊本バンドをつくらりロイ・ランシング・ジェーンズの熊本洋学校第五回生で、同志社を経て鎮西学館で学び、オハイオ・ウェスレアン大学でマスター・オブ・サイエンスの学位を取得。鎮西学館教師を経て、第五高等学校で夏目金之助(漱石)の後任として英語科主任教授に就きました。熊本三年坂教会に所属し、慈善事業にも協力を惜しまないメソジストの信者でもありました。

開設当初、九州学院には校訓も校則も校歌もなく、開校式(第一回入学式)での遠山院長の訓辞が、そのまま創設時の精神であり教育方針でした。当時、遠山院長が満45歳、ブラウン主事が満37歳の最も意気軒昂な時期で、二人は盟友として九州学院の礎を築いたのです。開校から5年後の1916年(大正5)3月11日、九州学院中学部の第1回卒業生を万感の思いで送り出し、ブラウンは帰国。1921年(大正10)新たな任地のアフリカで47歳の生涯を終えました。

ちなみに、スタイワルト宅から熊本市内東子飼町に移転して授業を継続していた(路帖神学校)は、開校した九州学院内に移転し神学部へ改組。神学部が専門学校令による設置認可を文部省から受けたのは1916(大正5)のことです。1925年(大正14)東京に移転し、(日本ルーテル神学専門学校)となりました。



創立者 Charles L. Brown (1874~1921年)  
ヴォーリス建築による礼拝堂は、  
Brown Memorial Chapelと名づけられました。

